

7月10日
地元のいいトコみ〜つけた！
弟小4年生が弟子屈の魅力再発見



地元弟子屈の魅力を紹介する総合的な学習での取り組み「弟子屈の魅力再発見！」の発表会が7月10日、弟子屈小学校（佐野哲哉校長）で行われました。8つの班に分かれ摩周湖・硫黄山・川湯温泉・屈斜路湖をそれぞれ2班が担当。現地に足を運び、インタビューや写真撮影などで集めた情報を新聞やパンフレットにまとめて発表しました。発表会には役場観光商工課とまちづくり政策課の担当者2人が招かれ児童の工夫を凝らした発表を見学。発表後にそのほかの観光資源や特産品について講演が行われ、児童は真剣に耳を傾けていました。

クイズを用意した班も

7月9日
新しい防災活動拠点が完成
新消防庁舎を一般公開



弟子屈遊覧飛行場跡地で建設工事が進められてきた釧路北部消防事務組合消防本部、弟子屈消防署の新庁舎が完成し、7月9日に一般公開されました。遠くは釧路・標茶からも訪れ、約250人が真新しい施設を見学しました。本年3月22日に竣工し、デジタル無線移設工事等を経て、7月13日から新庁舎で業務を開始しています。

新しくなった通信指令室

6月28日

皆さんが歩きやすい登山道に
摩周岳登山道でササ刈り



川湯エコミュージアムセンターを運営している屈斜路カルデラ自然ふれあい推進協議会（会長・徳永町長）を中心とした関係機関の皆さんが6月29日、摩周岳登山道の整備を行いました。毎年初夏と秋の2回、登山道入口から頂上までの片道約7.2キロの間で実施されているものです。この日参加した25人は4グループに分かれ、森林組合員が機械で刈ったササを、熊手で登山道中央部に寄せ集めていきました。作業を見ていた登山者からは「とても歩きやすかったです。お疲れさま」と、参加者をねぎらう声が聞かれました。次回は9月頃に実施される予定です。

手分けして手際よく作業

カメラスケッチ



このページは皆さんからの情報で作られています。どのような情報でもすぐにかかけつけます。お気軽にご連絡ください。



まちづくり政策課広報統計係 ☎482-2913(課直通)

7月14日

大切な生態系の保護のために
特定外来生物オオハンゴンソウを駆除



摩周・屈斜路パークボランティア（金井秀明会長）の皆さんが7月14日、川湯温泉街にて特定外来生物オオハンゴンソウの駆除活動を実施しました。毎年、オオハンゴンソウの種子が飛散する前に行われているもので、葉の形が似ているヨモギや在来種のハンゴンソウと見分けながら作業を行いました。この日は2カ所で駆除活動を行い、合計1,532本を除去。参加した皆さんは、駆除した本数の多さに驚きながらも、「より多くの人たちと協力して駆除活動を続けていきたい」と話していました。

暑い中での駆除作業

7月12日

松浦武四郎の功績や屈斜路アイヌとの絆を紹介
武四郎講座第2回を開講



屈斜路湖周辺の歴史・文化の収集、発信などを行う地域活動団体・チームくっしゃろ（斎藤敬子代表）主催の武四郎講座第2回が7月12日、町公民館で行われ約30人が参加しました。「そもそも、松浦武四郎ってどんな人？」をテーマに、今年度から実施された「北海道みんなの日」（7月17日）の制定に大きく関わった松浦武四郎の功績や人生などを解説。屈斜路湖畔を調査したときに案内役を務めた地元アイヌの子孫と、武四郎の出身地である三重県松阪市民との間で現在も続いている交流なども紹介されました。

北海道みんなの日の由来とは

7月7・16日

みんなで住みよいまちづくりを
社会を明るくする運動の街頭啓発



社会を明るくする運動強調月間の7月、保護司や更正保護女性会などで組織する実行委員会（実行委員長・徳永町長）の皆さんによるさまざまな啓発活動が行われました。7日には、JA摩周湖前とフクハラ摩周店前で買い物客にティッシュなどを手渡し、住みよいまちづくりへの理解と協力を呼び掛けました。また、町内小・中学校を訪問し、子どもたちへノートとペンを贈ったほか、16日には摩周の里夏まつりの会場で啓発活動を行いました。

夏まつり会場で啓発

7月4日

自然のなかで自由に遊ぶ
原野のもりの木育ひろばを開催



原野のもり（旧からまつふあーむ）で7月4日、原野のもりの木育ひろばが開催されました。自分の居心地のいい場所で自由な遊びを展開する「森の遊び場」。森のお手入れも遊びに取り入れています。当日は5組の親子が参加。同森を管理するてしかが自然学校の萩原寛暢さんのガイドで、大きなハンモックに揺られたり、アリ塚の観察をしたり、たき火でマシュマロを焼いたり自由に楽しみました。また、隣接するログハウスで休憩もでき、子どもたちは木の香りに包まれつつろぎながら同森のカラマツで作ったおもちゃで遊びました。

お母さんと巻割りに挑戦

7月20日

ふるさとの釧路川を豊かに
リバープロテクション・21の会がヤマメを放流



釧路・リバープロテクション・21の会（上田光夫会長）によるヤマメの稚魚の放流が7月20日、摩周温泉公園の釧路川護岸で行われました。魚類資源の回復のために毎年行っているもので、釧路開発建設部釧路河川事務所や町、会員など関係者約40人が参加。摩周丘幼稚園（鈴木幸栄園長）26人と、弟子屈小学校（佐野哲哉校長）の2年生24人も招待され、ヤマメの稚魚1,500匹を放流しました。

無事に大きくなれと願いを込めて

7月18日

元気に運動して健康に
高台自治会で百歳体操



日常生活がしやすくなる筋力をつけ、健康な体を目指す「いきいき百歳体操」が7月18日、高栄会館で行われました。鎌田ケイ子さんが代表を務め高台自治会のみなさんが参加して、毎週火曜日に行われています。当日は12人が参加。DVDの手本と音楽に合わせて、声をだしてカウントをしながら全身を動かしました。体操はイスに座って行うものやイスを支えにして行うものなど様々。準備運動から整理運動まで30分程度で手軽に行えます。現在参加者は女性だけですが、男性の参加も歓迎しています。定期的な運動で気持ちよく汗をかき、健康な体を目指してみませんか。

自分の体力に合わせて

7月9日

摩周湖を取り巻く環境を観察
自然ふれあい行事「摩周名水ツアー」を開催



川湯エコミュージアムセンター主催の自然ふれあい行事「摩周名水ツアー」が7月9日に開催され、町内外から34人が参加しました。8月に予定されている阿寒摩周国立公園名称変更を記念して行われたもので、摩周湖を取り巻く環境をバスで回りながら観察しました。摩周湖第1展望台や裏摩周展望台、神の子池など各ポイントでは、自然環境などについてスタッフが解説。最後は虹別さけますふ化場にて、摩周湖の湧水を観察。参加した皆さんは熱心に耳を傾け、質問をするなど積極的な姿が見られ、摩周湖の魅力を再認識していました。

鏡の摩周湖に感動

7月7日

水の大切さを考える契機に
摩周大橋で150人が乾杯



「ミズベリングプロジェクト」の「水辺で乾杯」が7月7日、摩周大橋で行われました。この取り組みは、水辺に親しみ、水の大切さを考える機会をつくろうと、国土交通省などが中心となってさまざまな活動を行っているもの。水辺で乾杯は、七夕の午後7時7分に各地で思いを共有しようと行われたもので、全国230カ所以上で行われました。町民の方や観光客のほか、釧路開発建設部や役場の職員、釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウエイのメンバーなど、昨年の2倍以上の人が集まり、今回は乾杯ではなく、九州北部での豪雨被害を受けた方へのお見舞いのメッセージを込めた写真を撮影しました。

ミズベリングに賛同して